



平成23年11月25日

水産庁

独立行政法人 水産総合研究センター

## 平成23年度日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

—別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター  
日本海区水産研究所がとりまとめた結果—

### 今後の見通し（平成23年11月～平成24年3月）のポイント

#### 漁況（来遊量）

さば類（島根県～新潟県）

前年並み。

マアジ（島根県～新潟県）

前年並み。

マイワシ（島根県～新潟県）

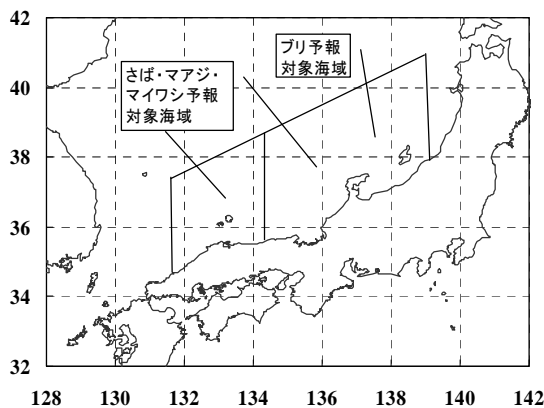
前年を上回る。

ブリ（兵庫県～新潟県）

0歳魚は前年並み。

1歳魚は前年並み。

2歳魚以上は前年を下回る。



※「前年」は平成22年11月～平成23年3月を示す。

### 問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、内海

電話：03-3502-8111(内線 6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

（予報の詳細についてのお問い合わせ先）

独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

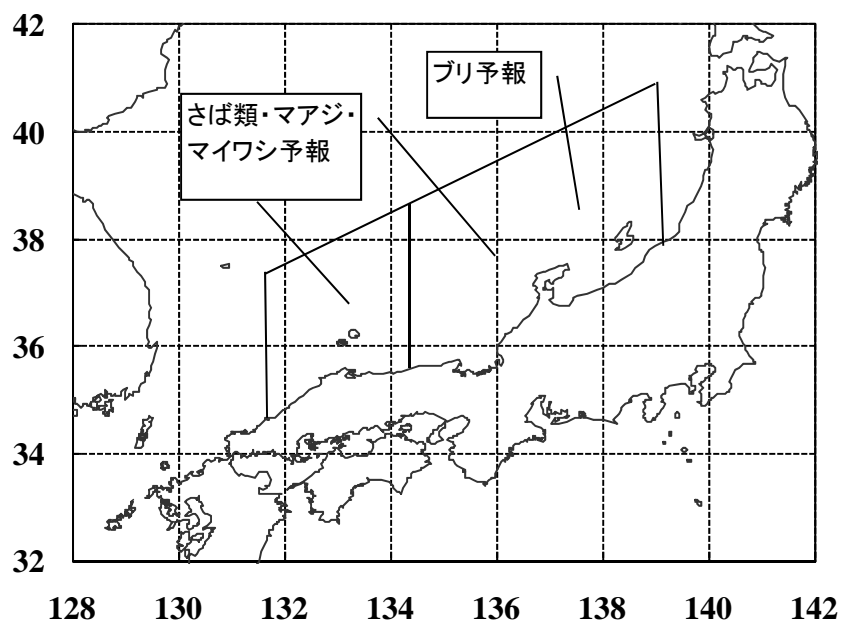
担当：関根、中島

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>



予報対象海域

## 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

### 今後の見通し（2011年11月～2012年3月）

1. さば類（島根県～新潟県）  
0歳魚（2010年級）は前年を上回るが、1歳魚（2009年級）は前年を下回り、全体では前年並みの来遊となる。
2. マアジ（島根県～新潟県）  
0歳魚（2011年級）と1歳魚（2010年級）を主体とした漁獲がみられ、来遊量は前年並みである。
3. マイワシ（島根県～新潟県）  
1歳魚（2010年級）を主体に前年を上回る。
4. ブリ（兵庫県～新潟県）  
各年級の来遊は以下のとおり予想される。  
0歳魚（2011年級）：前年並み。  
1歳魚（2010年級）：前年並み。  
2歳魚以上（2009年およびそれ以前の年級）：前年を下回る。

※「前年」は2010年11月～2011年3月を示す。

### 漁況の経過（2011年1～9月）および今後の見通し

#### 1. さば類（図1、2）

##### ●2011年1～9月の経過

日本海で漁獲されるさば類は、東シナ海と日本海の間を回遊する対馬暖流系資源の一部で、その動向は東シナ海域と密接に関わっている。日本海主要港（島根県～新潟県）におけるさば類の漁獲量は2008年と2009年に増加したが、2010年は過去5年で最少であった。2011年1～9月における漁獲量は14,000トンで、前年同期（8,600トン）および過去5年平均（11,500トン）を上回った。

府県別では、全体に占める割合が大きい鳥取県および島根県（まき網）の漁獲量は3～4月に好調で前年および過去5年平均を上回ったが、その殆どを占める鳥取県の10月の漁獲量は前年並みであった。中部以北海域におけるまき網（主体は石川県と新潟県）

および兵庫県以北の定置網の漁獲量は前年を上回り、過去5年平均と同程度であった。

#### ●資源状態と年級の豊度

対馬暖流系マサバ資源量は、2008年は高い加入量のため増加し、2009年も2008年と同程度であったが、2010年は2009年よりやや減少した。2009年級の豊度は2008年級より低く、2010年級の豊度は2009年級より低いとみられる。2011年級の評価は難しいが、2010年級より高い豊度とみられる。これらのことから、0歳魚（2011年級）は前年を上回るものの、1歳魚（2010年級）は前年を下回り、2歳魚（2009年級）は前年を下回ることから全体の来遊量は前年並みと考えられる（西海区水産研究所「平成23年度第1回対馬暖流系アジ・サバ・イワシ長期漁海況予報」より）。

#### ●今後の見通しについて

日本海の漁獲量は、例年、西部海域のまき網の占める割合が大きく、0歳と1歳が漁獲の主体となる。2011年級（0歳魚）の豊度は前年を上回るものの、2010年級（1歳魚）の豊度が前年を下回ると考えられることから、西部海域への来遊量は前年並みと考えられる。中部以北海域におけるまき網と定置網の漁況は好調であるが、日本海の漁獲量は、西部海域のまき網が主体となるので、全体への来遊量は前年並みと考えられる。

#### ●海況について

「平成23年度第3回日本海海況予報」（日本海区水産研究所）によれば、2011年10～12月、対馬暖流域の表面水温は「高め」で経過すると予報されており、漁況に与える影響は少ないと思われる。

## 2. マアジ（図3～5）

#### ●2011年1～9月の経過

2001～2010年における島根県～新潟県の主要港の水揚げ量は37,400～67,700トンで、2010年は前年より大きく減少した。2011年1～9月の漁獲量は22,500トンで、前年同期の21,800トンと同程度であったが、過去5年（2006～2010年）平均（33,600トン）

を大きく下回った。月別では1～3月に前年を上回ったが、殆どの月で2009年を大きく下回り低調に推移した。

#### ●資源状態と年級の豊度

日本海で漁獲されるマアジは対馬暖流系資源の一部であり、その動向は対馬暖流系群の資源状態と密接に関わっている。対馬暖流系群における2010年級（1歳魚）の豊度は2009年級（2歳魚）を上回ると考えられる。また、2011年級の豊度は稚仔魚および幼稚魚分布調査などから2010年級を下回ると考えられる（西海区水産研究所「平成23年度第1回対馬暖流系アジ・サバ・イワシ長期漁海況予報」より）。

#### ●今後の見通しについて

日本海区水産研究所、鳥取県および島根県が共同で毎年5～7月に日本海西部海域でマアジの新規加入量調査を行っている。この調査の中層トロールによるマアジ幼魚の採集数と水温分布から求めたマアジの加入量指数（来遊量の多さ）は、来遊量の多かった2003年を1とすると、2011年は0.21で、前年（1.92）を大きく下回った。推定されたマアジ幼魚の加入量指数は、境港におけるまき網1ヶ統あたりの0歳魚の漁獲尾数と対応関係が見られるので、日本海西部海域における0歳の来遊量は前年を下回ると考えられる。

11～3月における日本海の漁獲量は、例年、0歳魚と1歳魚が主体で、2歳魚以上も漁獲される。0歳魚は前年を下回り、1歳魚は前年を上回り、2歳魚は前年並みで、全体の来遊量は前年並みと考えられる。

### 3. マイワシ（図6、7）

#### ●2011年1～9月の経過

日本海におけるマイワシの漁獲量は2001年以降増加傾向を示しているが、2010年の漁獲量は約4,800トンであった。しかし2011年4～6月に鳥取県に水揚げされたまき網の漁獲量は20,000トンを超え、この殆どは2010年級（1歳）であった。同時期、能登

半島周辺においても 2010 年級が来遊し、1～9 月における日本海主要港（島根県～新潟県）への水揚げ量は約 26,000 トンと 2000 年以降の最多となった。

●資源状態と年級の豊度

2010 年級は近年では最も豊度の高い年級と考えられるが、2011 年級の評価は難しい。資源水準は依然低位にある。

●今後の見通しについて

来遊量は 1 歳魚（2010 年級）を主体に前年を上回ると考えられる。

4. ブリ（図 8～10）

●2011 年 1～9 月の経過

2000～2010 年における兵庫県～新潟県の主要定置網の漁獲量は 4,900～8,600 トンで横ばい傾向であった。2011 年 1～9 月における漁獲量は 8,100 トンであり、前年同期（4,900 トン）および過去 5 年（2006～2010 年）平均（5,200 トン）を大きく上回った。3 月と 9 月は前年をやや下回ったが、他の月では前年を上回って推移した。特に 1 月と 5 月は漁獲量が 2,000 トンを超え、前年を大きく上回った。

年齢別の漁況経過をみると、兵庫県～新潟県における 0 歳魚と 1 歳魚の漁況はともに好調に推移した。1～9 月の 0 歳魚の漁獲量は 1,430 トンで、同期間における前年（1,160 トン）を上回ったが、過去 5 年平均（1,800 トン）を下回った。1 歳魚（2010 年級）の漁獲量は 3,750 トンで、同期間における前年 1,960 トンおよび過去 5 年平均（1,900 トン）を大きく上回り、好調に推移した。2 歳魚以上（2009 年級および 2008 年以前の年級）の漁獲量は 2,900 トンで、同期間における前年 1,800 トンおよび過去 5 か年平均（1,460 トン）を大きく上回ったが、これは 1 月に 2007 年級が好漁であったことによるものであり、それ以外の月では前年を下回り低調であった。

●資源状態と年級の豊度および今後の見通しについて

0 歳魚である 2011 年級は 6～9 月に前年同期と同程度で漁獲されており、0 歳魚の来

遊量は前年並みと考えられる。

1 歳魚である 2010 年級は、0 歳時の漁獲尾数が高水準であること（「H23 年度ブリの資源評価」より）に加え、2011 年 1～9 月にも堅調に漁獲されていることから、資源水準は高く、来遊量は前年と同程度と考えられる。

2 歳魚である 2009 年級および 3 歳魚である 2008 年級は、1 歳時に多獲されたため残存資源量のレベルが低いものと見られ、2011 年 1～9 月の漁獲量は低調に推移している。2 歳魚以上（2009 年級以上）の来遊量は前年を下回ると判断される。

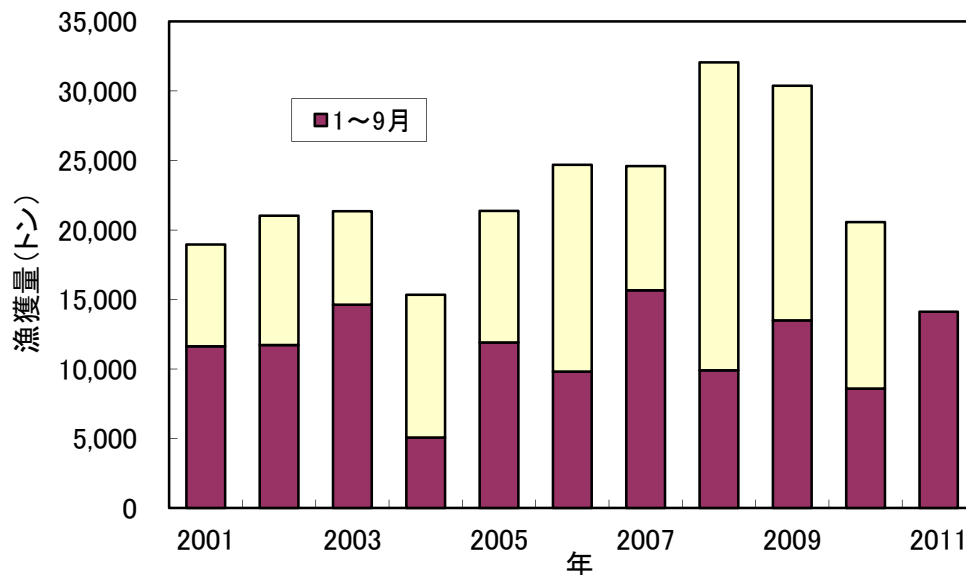


図1 さば類の漁獲量の経年変化

(年計、■は1～9月まで；島根県～新潟県、2011年は9月まで)

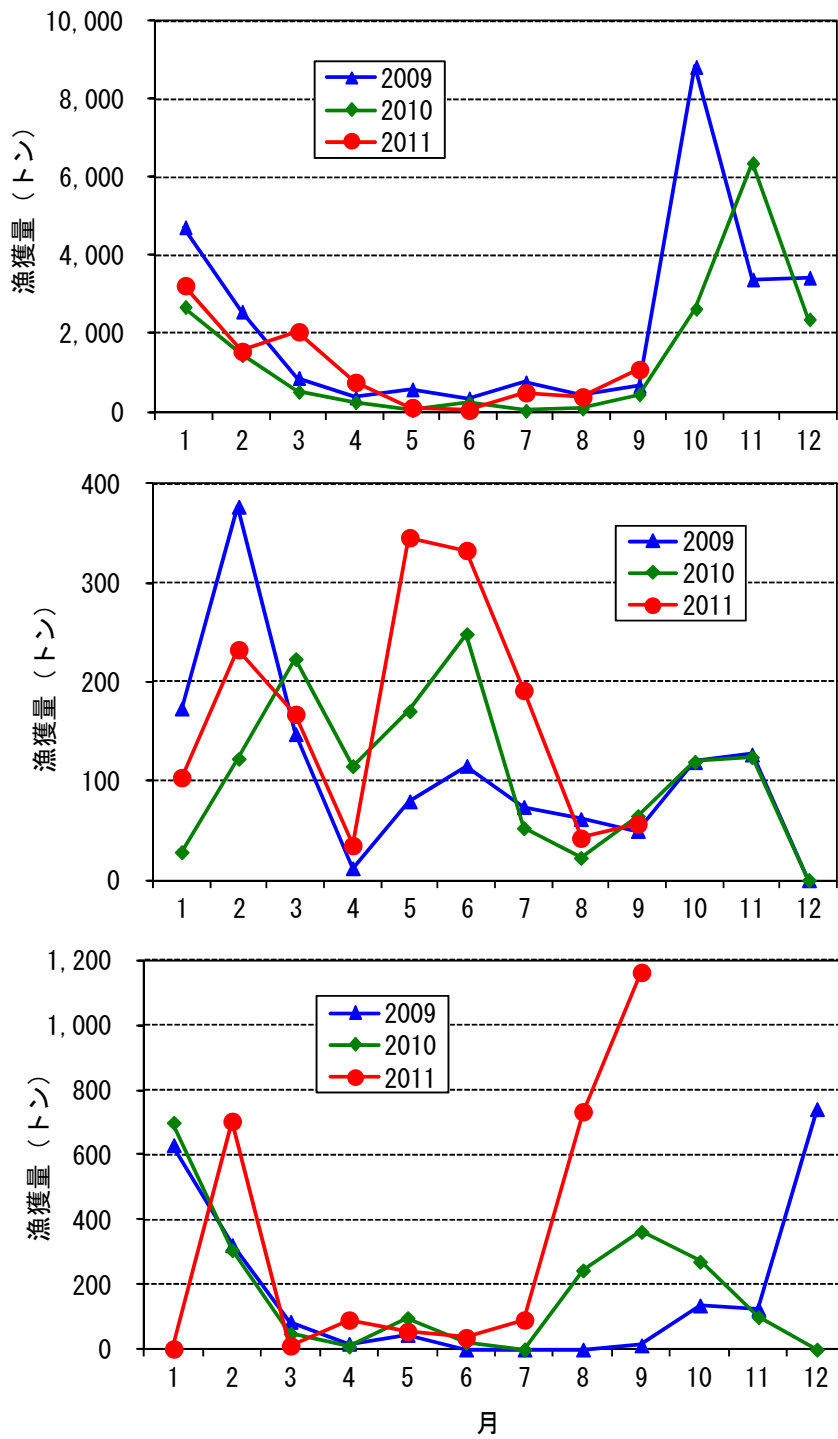


図2 さば類の月別漁獲量の推移（2009-2011年、2011年は9月まで）

上：島根県～鳥取県（まき網）

中：兵庫県～新潟県（定置網）

下：兵庫県～新潟県（まき網：定置網以外を集計）



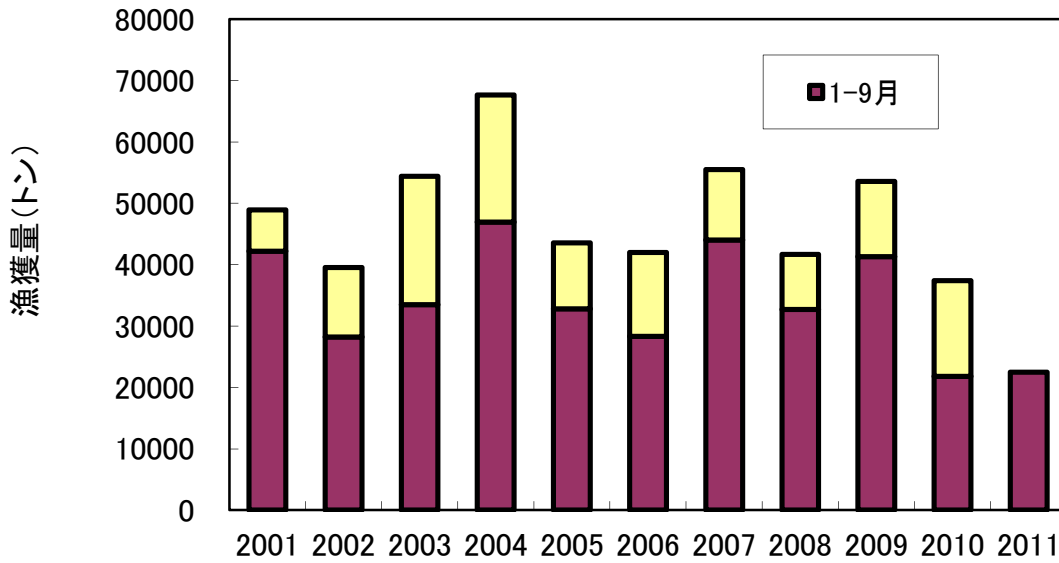


図3 マアジの漁獲量の経年変化

(年計、■は1～9月まで；島根県～新潟県、2011年は9月まで)

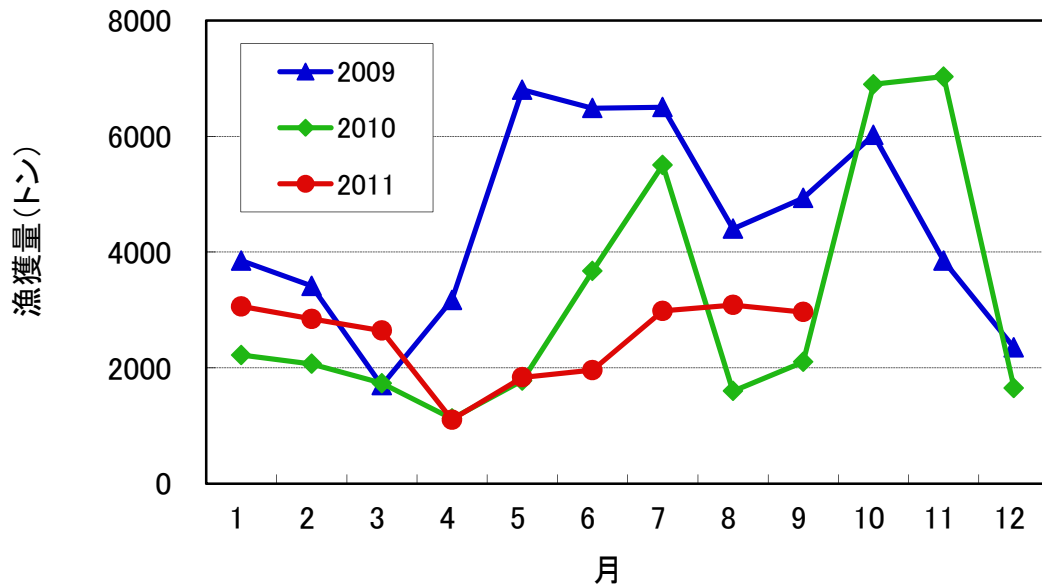


図4 マアジの月別漁獲量の推移 (2009-2011年、2011年は9月まで)

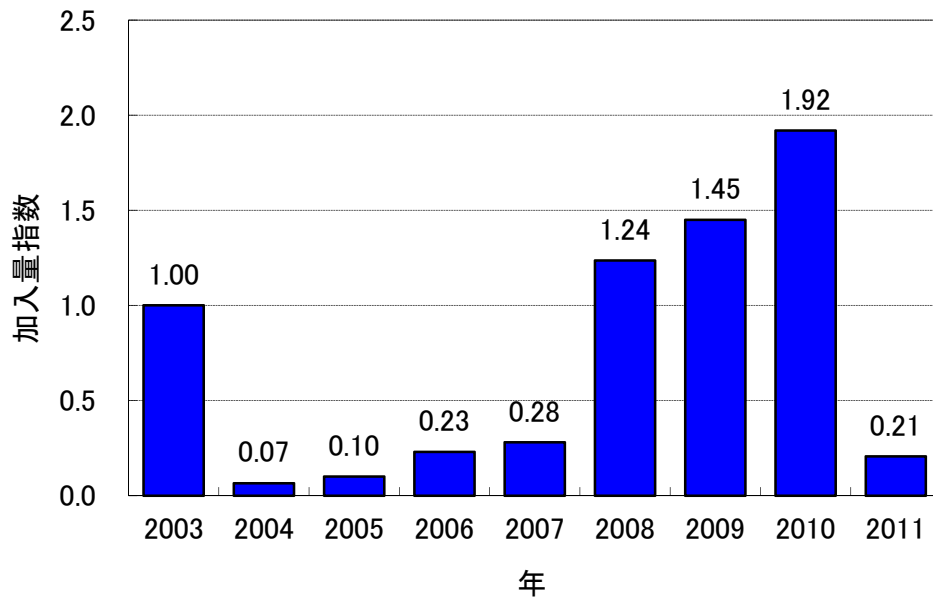


図5 トロール調査によるマアジ幼魚の採集数と水温分布から算出されたマアジ加入量指数の経年変化（2003年を1とした）

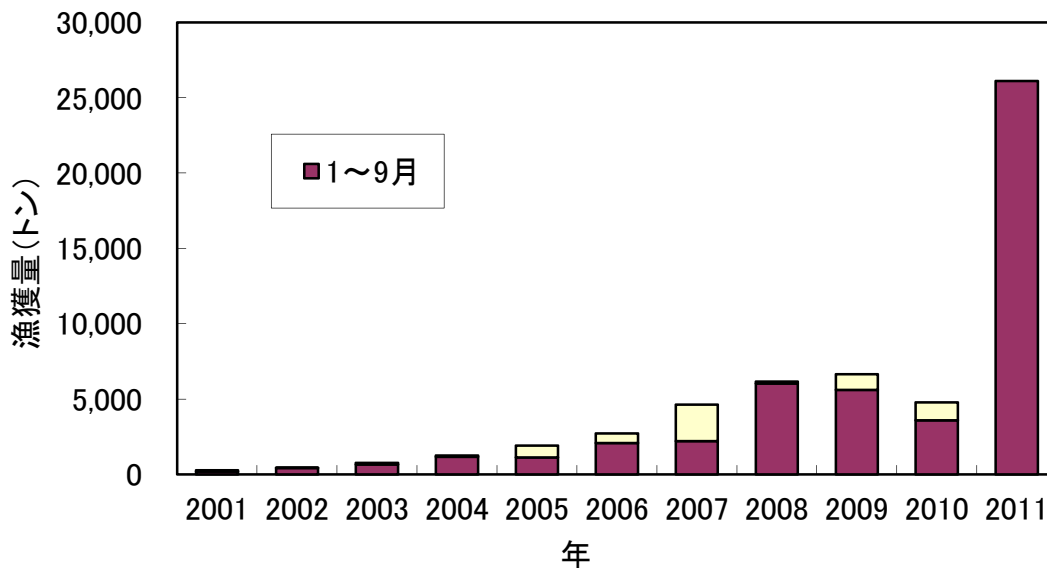


図6 マイワシの漁獲量の経年変化

(年計、■は1~9月まで；島根県~新潟県、2011年は9月まで)

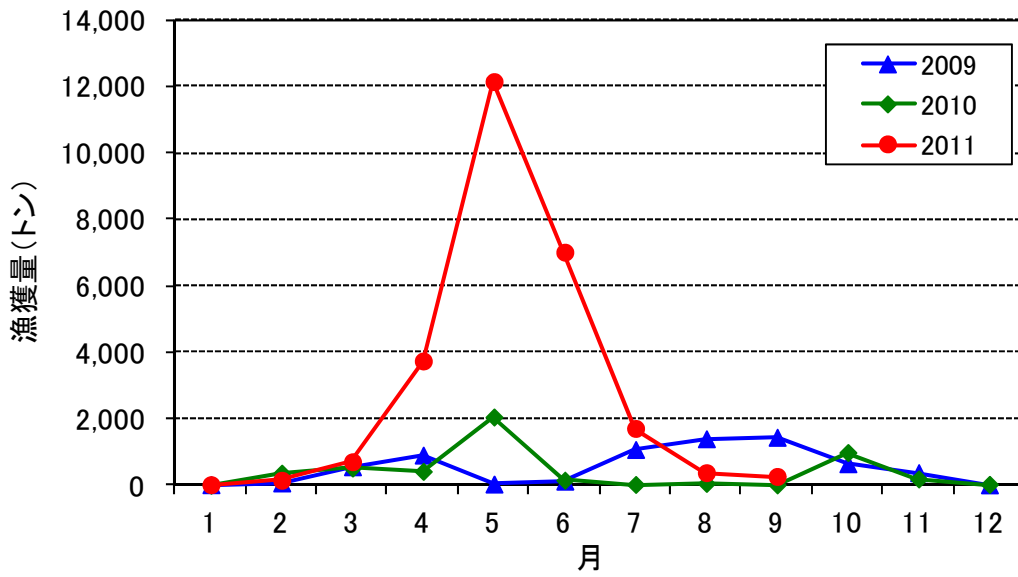


図7 マイワシの月別漁獲量の推移（2009-2011年、2011年は9月まで）

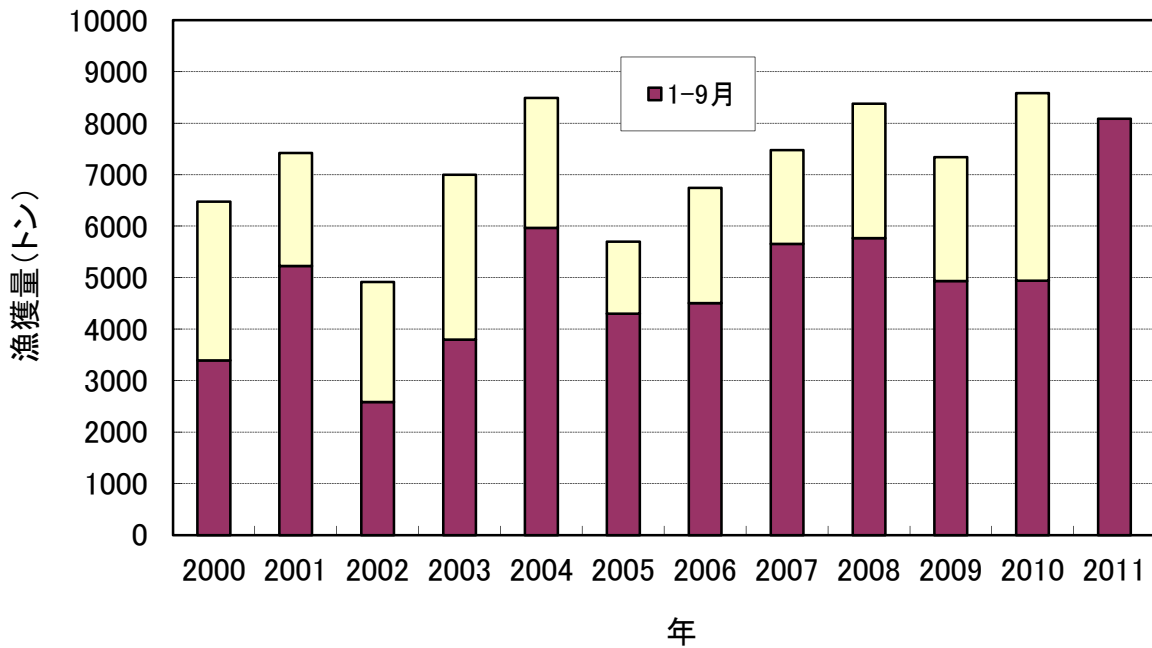


図8 兵庫県～新潟県におけるブリの特定定置網漁獲量経年変化

（年計、■は1～9月まで；2011年は9月まで）

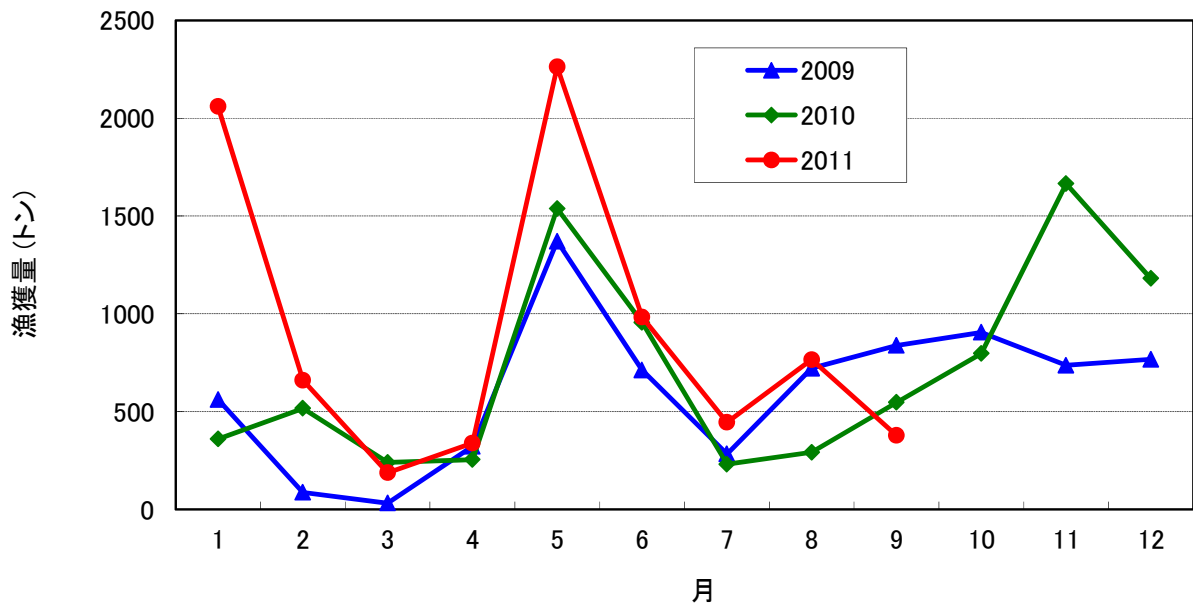


図9 兵庫県～新潟県におけるブリの特定定置網月別漁獲量 (2009-2010年、2010年は9月まで)

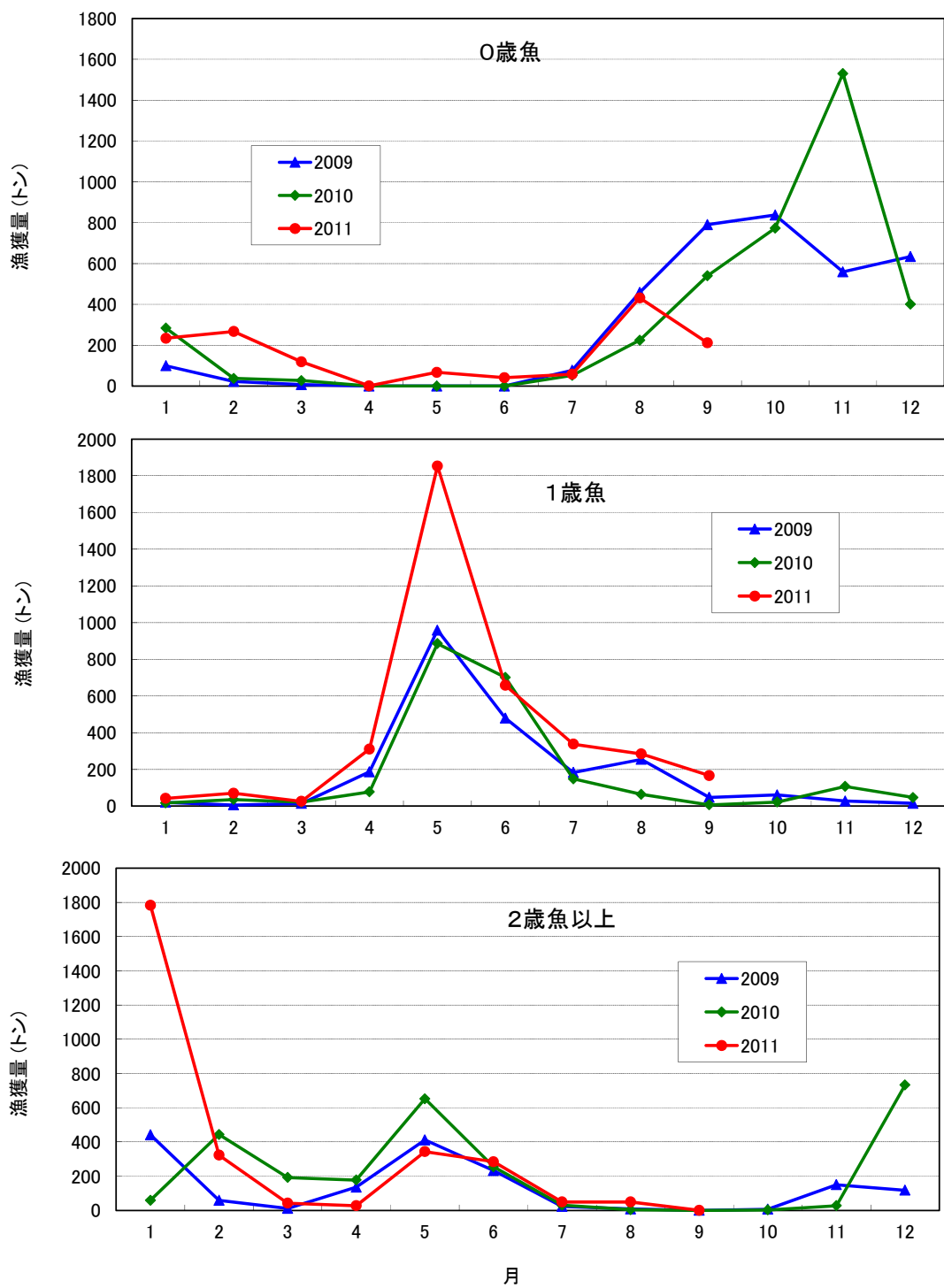


図 10 兵庫県～新潟県におけるブリの特定定置網の年齢別月別漁獲量  
(2009-2011 年、2011 年は 9 月まで)

## 参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産試験場	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	独立行政法人 水産総合研究センター 西海区水産研究所
福井県水産試験場	(取りまとめ機関) 独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所